

多賀城市文化財調査報告書第三九集

『山王遺跡―第一次調査―出土の漆紙文書』の刊行

多賀城市山王遺跡は多賀城の南西、砂押川の西岸に位置している遺跡である。出土文字資料として木簡・漆紙文書などがあり、その内容から国司館や漆工房の存在が推定されている。漆紙文書についてはすでに二点が報告されているが（多賀城市埋蔵文化財調査センター『山王遺跡―第二次調査概報』一九九二年）、その後出土した五点についての報告書が刊行された。

釈文、現状写真、赤外線テレビの画像の図版を掲載し、関連する木簡、正倉院文書などの史料の検討を踏まえた解説を付す。中でも駅戸編成のあり方を示す記載を含む計帳歴名（三号文書）、現存計帳とは戸口の記載順を異にする計帳様文書（四号文書）などが注目される。

多賀城市埋蔵文化財調査センター編集

多賀城市教育委員会発行

一九九五年三月刊

図版一枚、本文三〇頁、B5版

頒価一〇〇〇円、送料一冊二四〇円

問い合わせ先 多賀城市埋蔵文化財調査センター

〒九八五 多賀城市中央二―二七―一

TEL 〇二―三六八―〇二三四